

■釧路公立大が北海道大破る。東京農業大は25年ぶり1部勝利。第4節

第50回北海道学生選手権第4節は9月15日、札幌市円山競技場で1部リーグの2試合を行った。1部4年目の釧路公立大が、3年連続29回目の優勝を狙う北海道大を14-7で下す金星を挙げた。釧路公立大は1勝1敗、北海道大は2勝1敗となった。2年ぶりに1部復帰の東京農業大は帯広畜産大に29-0で勝利し1勝2敗。帯広畜産大は1分け1敗。東京農業大の1部勝利は1999年の札幌学院大戦以来で25年ぶり。

釧路公立大は昨年まで、新型コロナウイルスによる棄権を含めて北海道大に2連敗していた。先手を取ったのは釧路公立大。第3Q2分、後半最初の攻撃シリーズでQB石川諒（1年、根室高）からWR高坂駿佑（4年、滝川西高）への33ヤードパスで6-0と先制した。北海道大が第4Q7分、RB下島圭太郎（2年、神奈川・多摩高）の5ヤードランで7-6と逆転したが、釧路公立大は直後の攻撃シリーズで自陣40ヤードからボールを運び、残り時間42秒でQB中西亮太（3年、旭川商業高）からWR高坂へ15ヤードTDパスが決まり12-7と再逆転。トライの2点コンバージョンも成功して14-7として逃げ切った。



釧路公立大の伊藤祐介コーチは「去年の悔しさ、今年の悔しさを忘れずに練習してきた。今日は歴史を変えようと、やってきた」と選手たちをたたえた。RBとLBでチームを引っ張った山崎涼太郎主将（4年、北見北斗高）は「これで3強と呼んでもらえる。次の試合も頑張る」と興奮気味に振り返った。殊勲のTDキャッチのWR高坂は「自分を信じて投げてくれーと中西に言った。逆転キャッチの瞬間はボールを捕ることだけに集中していた。北海学園大戦の1点差負けから3週間、北大戦のことだけを考えてきた」と感無量の様子。QB中西も「ラッシュから逃げながら、エンドゾーンの左隅目がけて投げた。

取ってくれると信じていた」と言葉を弾ませた。



一方、北海道大の樋之本彬HCは、3校が1敗で並ぶ可能性もあることから「3校の得失点差の争いもある。2校を上回るために北海学園大戦に向けてキックとタックルを磨く」と選手に期待。T羽仁高滉主将（4年、東京・東京学芸大付属中等教育学校）は「敗戦を糧に課題をつぶして強くなる」と巻き返しを誓った。

東京農業大は、WR/DB浅川夏暉（2年、東京・安田学園高）の攻守での2TDなどで快勝した。第2Q6分、RB藤沢清芳（4年、岩手・盛岡第四高）の3ヤードランで先制すると、同11分にはQB関叶翔（2年、茨城・日立北高）からTE大嶽潤太郎（2年、神奈川・逗子高）へ27ヤードパスで13-0。第3Qも、1分にQB関からWR浅川への14ヤード弾で20-0、8分には相手パントのスナップミスでセーフティの2点を加えた。第4Q開始直後にDB浅川が40ヤードのインターセプトリターンTDで駄目を押した。

帯広畜産大はDB卯野優翔（3年、兵庫・洲本高）が3インターセプトと気を吐いたが、自慢のラン攻撃が進まず、要所でファンブルやスナップミスが相次ぎ、リズムをつかめなかった。

東京農業大の神田健心コーチは「今日は2年生が頑張った。反省点もあるので、明日からみっちりとする。残り2試合も自信を持ってやり切りたい」と、勝利を弾みにしたいと願った。RB大類楽主将（4年、神奈川・平塚農商高）は「チーム一人一人が考えて練習してきた成果だ」と四半世紀ぶりの1部勝利に胸を張り、2TDパスのQB関は「1本目



のTD（藤沢の3ヤードラン）は練習通り。FBに持たせて、全員で後ろから押す練習をしてきた」と先制シーンに満足げ。TDキャッチとインターセプトリターンTDのWR浅川は「北海学園大の反省から、QBの投げやすいコースを探した。インターセプトは、相手WRをマークしたらボールが飛んできた。取った瞬間にいけると思った」と喜んだ。

一方、帯広畜産大の西龍一郎監督は「攻撃が出なかった。残り3試合、1部残留に向けて頑張る」と選手たちに奮起を求め、3インターセプトのDB卯野は「守備から攻撃に流れを持っていきかけたのだが」と残念がった。（広報委員 塚田博）